

# 私の提言

**桂 小米** 落語家

1950年、鳥取県生まれ。69年に桂米朝に入門し、「桂すずめ」を名乗る。74年、「桂小米」を襲名。定期的に「桂小米独演会」などを開催するほか、マスメディアでも活躍中。今年2月、政府インターネットテレビで岸田文雄・内閣府特命担当大臣(国民生活担当)と「交通事故のない社会を目指して」をテーマに対談を行った。



「横断歩道で信号が青やからといって、右折や左折するクルマが来ますやろ、注意せなあかんよ」「それやったら横断歩道のないところは、もっと注意せなあかんよ」「なに、アホいうとるんや、そやない、横断歩道のないところを渡ったらあかんがな」。会場に笑い声が響く。4月10日、愛知県常滑市のJ Aあいち知多総合本部ビルで行われた桂小米さんによる交通安全落語の模様である。

J A共済が交通安全落語を組み合わせた「高齢者向けの交通安全教室」を始めたのは平成17年度。落語を取り入れたのは、笑いを通して楽しみながら交通安全のルールを再認識してもらおうためだという。桂小米さんは、この交通安全落語に当初から携わっている落語家だ。初年度は17カ所だった開催数だが、19年度は全国約170カ所に急増し、約2万5000人が参加した。交通安全落語を演じる落語家も当初の2人から現在は5人体制となっている。

交通安全教室は講話や敏捷性測定、身体機能低下を予防する体操などのプログラムもあり、交通安全落語は最後に約30分間演じられる。小米さんは高座に上がると話の枕に短い小話をいくつかふって、参加者の反応を見ながら、少しずつ長い小話へ。「セレブな奥様が美術館にいらして、これはピカソではない?と係員に尋ねる」「いえ、奥様、シャガールでございます」「これはピカソでしょ?」「いえ、それもシャガールでございます」「これはピカソよね」「いえ、奥様、鏡でございます」。次々とテンポよく繰り出される小話に会場が笑いに包まれたところで、主題の交通安全へ。町内の老人クラブに集まる高齢者たちの会話という設定。「みなさん、今週は交通安全運動週間だな、年寄りの事故が多いということやから、みんなで交通安全を勉強しようちゅうことや。愉快でほけた高齢者たちとクラブの会長との軽妙なやりとりで話がすすむ。

高齢者は道路を横断する時に、事故にあうことが多い。小米さんは「自分の体力と相談しながら横断歩道を渡る」「青信号でも右左折のクルマがくるので注意」「クルマのほうに止まってくれるという思い込みはしない」などを話の中に織り込んでいる。「歩いている時は無理をしない、あわ

伝えたいことは「無理しない、あわてない」交通安全教室は講話や敏捷性測定、身体機能低下を予防する体操などのプログラムもあり、交通安全落語は最後に約30分間演じられる。小米さんは高座に上がると話の枕に短い小話をいくつかふって、参加者の反応を見ながら、少しずつ長い小話へ。「セレブな奥様が美術館にいらして、これはピカソではない?と係員に尋ねる」「いえ、奥様、シャガールでございます」「これはピカソでしょ?」「いえ、それもシャガールでございます」「これはピカソよね」「いえ、奥様、鏡でございます」。次々とテンポよく繰り出される小話に会場が笑いに包まれたところで、主題の交通安全へ。町内の老人クラブに集まる高齢者たちの会話という設定。「みなさん、今週は交通安全運動週間だな、年寄りの事故が多いということやから、みんなで交通安全を勉強しようちゅうことや。愉快でほけた高齢者たちとクラブの会長との軽妙なやりとりで話がすすむ。

## 落語の笑いを通して、高齢者に交通安全の基本を伝える



相手にも聞く耳を持つてもらうために

小米さんは4年前に両足を手術している。歩くことはできるが、走れない。「よく利用する大阪駅前の交差点は横断歩道が長いので、取り残されることがあるんです。信号が赤に変わって横断歩道の真ん中でまごまごしている高齢者の気持ちがわかります。信号のない横断歩道では近づいてくるクルマのスピードと、自分の足と相談して渡るよさになりました。

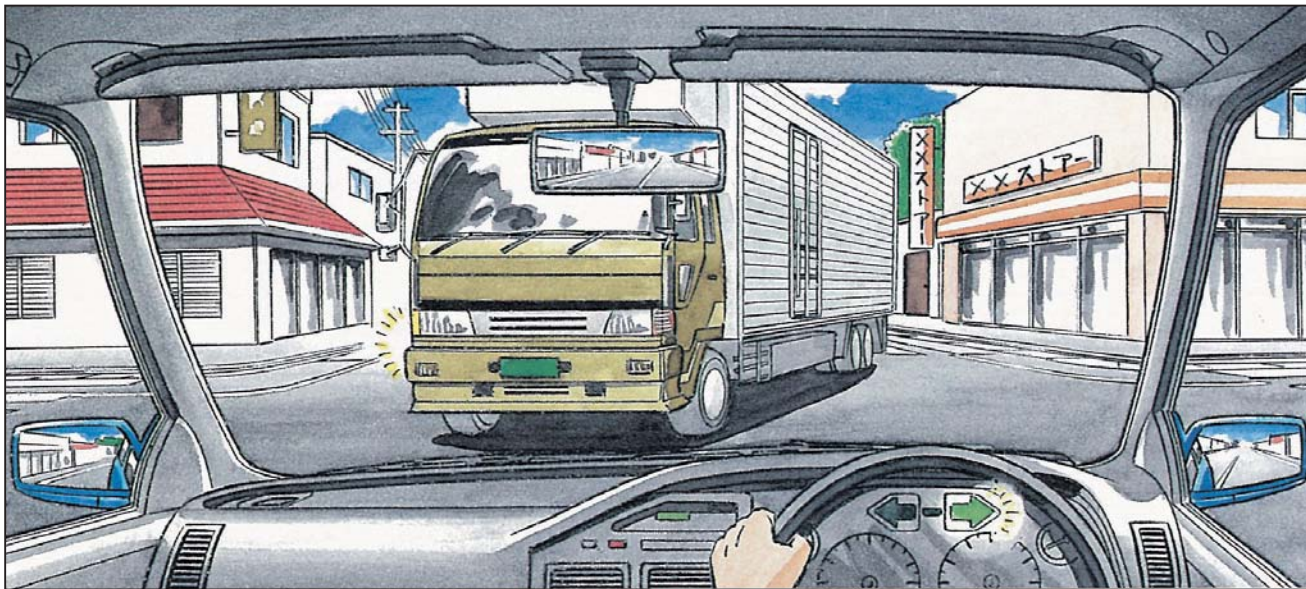
体験に裏打ちされた笑いは聞く人の心に残る。小米さんの交通安全落語の持ち味といえるだろう。「交通安全は難しい話だと思っている方もいるでしょう。そこに笑いを入れてあげると、気持ちやわらいで、話を聞くという気がなるものです。相手に伝える工夫も、高齢者の交通安全には大事なことだと思います」。

小米さんは「交通安全落語を聞いていただいた方々の意識が高まり、事故の防止につながれば、こんなにうれしいことはありません」と、全国各地の高齢者に交通安全を啓発している。

### 危険予測トレーニング(KYT) — 危険感受性を育てる

### 第2回 対向右折車の前を右折する時に

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を育てるための題材をご提供いたします。今回は四輪車のドライバーに、右折の際の危険を考えてもらうためのKYTです。企業/団体などでのグループ教育の学習の中で活用してください。



トラックが対向車線で右折待ちをしています。対向車はこないようなので、あなたは右折しようと思います。どのようなことに注意しますか?

- Q1** どのような危険がありますか?
- ①対向右折トラックがあり、そのほかの対向車は直進してくることができない
  - ②対向右折車はトラックなので、それと接触する
  - ③対向右折トラックの後ろから二輪車が直進してくる
- Q2** どのような運転をしますか?
- ①対向右折トラックが待っている間に右折する
  - ②右折する先にクルマや歩行者がいらないか注意しながら右折する
  - ③対向右折トラックの後ろから、二輪車が出てこないかに注意を払いながら右折する

正解を1つ、または2つ選んでください

#### 活用方法

- ① 少人数のグループをつくります。
- ② 「交通場面のイラスト」を見ながら、Q1、Q2について意見を出し合います。
- ③ その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すればいいか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJのホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

#### 【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部  
TEL: 03 (5412) 1736



今回のKYTの題材は、Hondaの危険予測トレーニング教材「交通状況を鋭く読む〜危険予測トレーニング〜四輪車用」から抜粋しています。詳細については以下ホームページ参照。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/>